

綾瀬市立綾北中学校

研究テーマ：持続可能な社会に向けた価値観をもった生徒の育成 ～ESD/SDGsの視点から指導の改善を図る～

1、実践の目的

新学習指導要領は全体の内容にかかる前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成を掲げた。持続可能な社会に向けた教育はESDと呼ばれる。我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年実施計画」によれば、「ESDで育みたい力」は次のとおりである。

ESDで育みたい力

- ・持続可能な開発に関する価値観
- ・体系的な思考力
- ・代替案の思考力
- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上

特に、「持続可能な開発に関する価値観」はその具体として「人間の尊重」「多様性の尊重」「非排他性」などが挙げられている。

本校は市内の中学校で唯一国際教室が設置され、4つの小学校区から生徒が集う「多様性の空間」である。本校ではこれまでにモラルジレンマによる道徳授業の実践、学活におけるソーシャルスキルトレーニングプログラムの実践など、「多様性の尊重」を意識的に育む取り組みを重ねており、さらに歴代の校内研究では「コミュニケーション能力」に焦点を当てた研究を重ねてきた。これまでの綾北中学校で重視してきた教育活動をさらに拡充・深化させていくことを目的として、研究主題を設定した。

2、実践の内容

(1) 校内研究の体制と研修会の実施

8名の推進委員と管理職により構成される校内研究推進委員会が中心となり、研究を推進した。全職員を4つのチームに分け、チームごとに校内研究特設授業の検討を行った。特設授業の授業者以外の教員も、1年間で1回以上「ESDで育みたい力」にかかわる授業を公開した。なお、学習指導案にはあやせ学びづくりの取り組みとして、振り返りの方法についても記載することとした。

全体研修会（8月）や、特設授業（2月）には、日本ESD学会会長・宮城教育大学名誉教授の見上一幸氏、綾瀬市教育委員会指導主事を招いて指導・助言を仰いだ。

(2) 特設授業の内容

4名の校内研究推進委員が授業を公開し、その後授業についての協議を行った。

●「アマゾンの熱帯林を守るためには、どのような対策が有効か考えよう」（1年社会 渡部裕司教諭）

2021年には1年間で長野県と同程度の面積の森林が失われたアマゾンの熱帯林について、どうしたらこの熱帯林破壊を食い止められるのか、世界的に影響のある若者になったつもりで、5つの選択肢の中からどれが重要かを議論する授業実践であった。協議では、「選択肢があること」で「中学一年生にもかかわらずとても活発な議論」につながったのではないかという意見が出た。

●「持続可能な社会を実現するために必要な、エネルギーを有効活用する方法を考えよう」(2年技術 鈴木章矢教諭)

日本が抱えているエネルギー変換技術の課題と、新たな発想に基づくその改良と応用について調べてまとめ、本時の授業は各班からの発表であった。調査とまとめの過程ではタブレットを活用し、Teams を利用した同時編集を行っており、協議では ICT 機器の活用や、発表の形式について議論が交わされた。

●「東京オリンピック 2020 の課題から SDGs を考えよう」(2年社会 三宅悠平教諭)

東京オリンピックは、日本が抱えるさまざまな SDGs にかかわる課題を浮き彫りにした。この授業では、東京が抱えている社会的課題をもとに、今後日本でオリンピックが開催された際に、大会を成功させるためにはどんなことが重要か、6つの選択肢からどれが重要か議論した。協議では、「事前の指導が良い仕掛け」で「生徒それぞれに根拠のある意見」につながっていたという意見が出た。

●「友達との語り合いを通して、絵本から見えた身近な SDGs について考えを深めよう」(1年国語 木下綾子総括教諭)

絵本には、様々なメッセージが含まれているものがある。この授業では、生徒一人ひとりがそれぞれ選んだ絵本から見えた SDGs について、紹介し語り合う実践が行われた。協議では、「他の生徒の意見を聞き、自分の意見と比較することで、生徒が再度絵本を読み込むきっかけとなった」「生徒が楽しそうに絵本の内容について語っていた。」などの意見が出た。



↑ 授業の様子

3、実践の成果

本研究主題による校内研究の推進は2年目を迎えている。以下の表は、生徒を対象として行っているアンケート調査(6件法で実施)のうち、「持続可能な社会に向けた価値観」に係る項目を中心に、3学年生徒の結果の一部を抜粋したものである。

質問項目	実施時期		令和4年度	
	令和3年度 1回目・7月	令和3年度 2回目・2月	1回目・7月	2回目・2月
私は授業に意欲的に取り組んでいる。	4.33	4.73	4.73	4.78
私は授業で他の人の考えを聞いたり、発表を聞いたりする活動ができています。	4.27	4.63	4.63	4.70
自分とは違う意見から学ぶことがあると思う。	4.44	4.77	4.77	5.04
自分とは全く違う意見だからと言って否定する必要はないと思う。	4.84	5.30	5.30	5.26

↑ 生徒アンケートの主な項目の変化(3年)

取り上げた各設問ともに肯定的な回答をする生徒が増えており、持続可能な社会に向けた価値観(多様性の尊重、非排他性など)が一定程度養われていることが示唆された。

4、今後の展開

異動者にとって、ESDは耳慣れない言葉であり、研究主題を理解し、研究を継承していくことが第一の課題である。また、ESDを研究主題に据える学校は、総合的な学習の時間を核として研究を進める学校が多いが、本校ではこれまで各教科を中心として、ESDやSDGsの視点からの指導改善に取り組んできた。本校においても総合的な学習の時間のあり方について研修会のたびに意見が出ている。このことについても、今後の研究を発展させていく上での課題である。